

平戸八景



△眼鏡岩

眼鏡岩

(場所) 瀬戸越町
国道204号沿いの高台に位置する曹洞宗西蓮寺の背後にあります。公園の一段高い所に、大きな2つの穴があいた岩がそびえています。岩の高さは約10m、長さは約20mで、大きい穴の直径が約8m、小さい穴は約5mあります。

この珍しい岩には、次のような伝説が残っています。
「昔、この地方に大きな鬼が住んでいて、昼寝から目を覚ましました。ウーンと足を伸ばしたら、足先の大岩にポツカリと2つの大穴が開きました」
実際は、約3千年前の新生代に堆積した「第三紀層」と呼ばれる砂岩に浸食と風化によって穴が開き、でき

たものと考えられています。岩には、梵字とともに、千手観音、十一面観音、如意輪観音が刻まれています。

御橋観音の石橋

(場所) 吉井町直谷
真言宗石橋山御橋観音寺の横の参道を上っていくと、両側の苔むした岩壁にぎっしりとシダ植物が生えています。シロヤマシダなど40種を越す暖地性のシダは、御橋観音シダ植物群落として、国の天然記念物に指定されています。



△御橋観音の石橋

参道の奥には、二条の天然の石橋がアーチ状に架かっています。地上約18m、長さ約30m、幅約5m、厚さ約2mで、眼鏡岩と同様に、浸食と風化によってできた奇岩と考えられています。

古い屋敷跡



△楠本端山旧宅



△鳳鳴書院図(長崎県立図書館蔵)

楠本端山旧宅

(場所) 針尾中町 県指定史跡
国道202号の葉山バス停近くの交差点から小道を下りていきます。幕末に平戸藩で儒学を教えていた楠本端山と、弟の碩水が生まれ育った家です。

正門は、端山が平戸に住んでいたときのものを明治14(1881)年にこの地に移しました。門をくぐる正面が内玄関と土間で、屋敷の中には客間、書斎、いろいろの間などがあります。天保3(1832)年に端山の父、忠次右衛門が建てた、地方武士の家です。また、儒教風に先祖をまつる、祠堂もあります。明治時代になると、端山は役職を

やめて、平戸から針尾に帰り、明治15(1882)年、儒学を教えるために弟碩水と共に鳳鳴書院をつくりました。鳳鳴書院には、全国から多くの学生が集まりました。

世知原館跡

(場所) 世知原町中通
中世からの世知原氏の館城跡と伝えられています。15世紀の末ごろ直谷城主となった志佐純元(峰昌)は、4人の息子を周辺の諸家に配しましたが、三男の定治が世知原氏を継いだと伝えられています。



△世知原氏館跡

軽便鉄道跡

佐世保軽便鉄道

かつて、佐世保軽便鉄道という、今よりも鉄道幅も狭く貨車や客車も小さい列車が走っていました。軽便鉄道の生みの親は、吉井町生まれで、世知原町の中倉家で育った国会議員の中倉万次郎です。万次郎は軍港市佐世保と大炭田地帯の北松浦地方を結ぶ国鉄線の建設を夢見、まず、佐世保軽便鉄道株式会社(後佐世保鉄道株式会社と改称)を大正7(1918)年に設立しました。



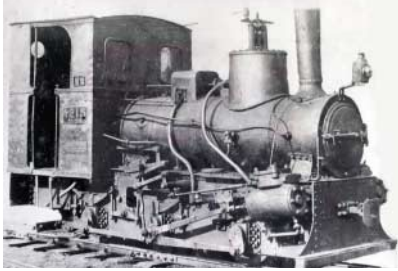
△軽便鉄道跡(大野町)



△軽便鉄道開通式



△松浦炭鉱鉄道跡(世知原町栗迎)



△松浦炭鉱鉄道の蒸気機関車



△世知原炭鉱資料館



△きりのき橋(世知原町北川内)



△樋口橋(吉井町大渡・立石間)



佐世保歴史年表

始まりから江戸時代、近現代まで、戦国時代を経て、石炭産業が都市へと発展していき、観光が盛んになる。先史時代から始まり、戦国時代を経て、石炭産業が都市へと発展していき、観光が盛んになる。

約3万2千年前	約1万2千年前	長祿元(1457)年	永祿6(1563)年	天正9(1581)年	天保3(1832)年	明治22(1889)年	明治29(1896)年	明治35(1902)年	大正9(1920)年	昭和20(1945)年	昭和23(1948)年	昭和30(1955)年	平成4(1992)年	平成6(1994)年	平成13(2001)年	平成17(2005)年
福井洞窟に人が住み始める	泉福寺洞窟で世界最古の土器「豆粒文土器」が使われる	武辺城主の宗家松浦13代盛が朝鮮との間に年に一度の歳遣船条約を結ぶ	平戸松浦氏が宗家松浦氏の居城・飯盛城を攻める	志佐純量が平戸松浦隆信に攻められ、直谷城が落城	楠本端山宅が建てられる	佐世保海軍鎮守府が開庁	松浦炭鉱鉄道完成	市制施行	佐世保軽便鉄道の相浦・柚木間が開通	空襲により市の中心部が焼失	佐世保港が貿易港に指定	西海国立公園指定	ハウステンボス開業	西海パールリゾート開業	アルカスSASEBO開館	4月1日、佐世保市と吉井町世知原町が合併